

## 第4学年2組 音楽科学習指導案

平成30年2月8日（木）公開授業Ⅲ

平成30年2月9日（金）公開授業Ⅱ

会場 2階-⑥（L 4年音楽）

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
教諭 佐藤 史人

### 1 題材名 ふしづくり はじく音色で この一首 - 箏を使った旋律づくり -

### 2 本題材の価値

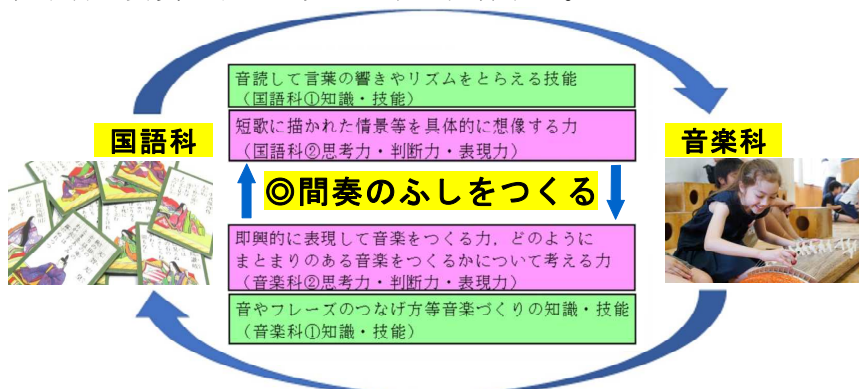
新学習指導要領では、我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を第3学年及び第4学年でも取り上げながら学習の充実を図ることが求められている。

本題材は、『百人一首』を声に出して読んでみよう（国語科）「日本の音階で旋律づくり（音楽科）」の二つの学習内容を関連付けた。こうすることにより、表現力を豊かにしていくことができると思ったからである。

一次では、国語科で『百人一首』を扱った。短歌は、限られた言葉の中で、場面や情景を豊かに表現していることを学習する。短歌の世界観に浸った子どもは、二次の学習で国語科の資質・能力を発揮しながら、ふし（旋律）を考えることができるのである。

二次では、日本の音楽のよさを感じ取れる和楽器として箏（こと）を扱い、短歌（お気に入りの一首）のイメージに合ったふしをつくる学習を行う。最終的に、グループで歌い、演奏しながら「百人一首の歌」を完成させるのである。

本題材で子どもは、手事\*（以下：間奏のふし）を作品に取り入れる。間奏のふしを考える際に、国語科と音楽科の資質・能力を次のように発揮する。



「・・・（短歌の一節）と書いてある。これは、～（短歌の意味）ということを表したいから○ ○という音にして表現しよう」のように、短歌の言葉の意味と音楽を形づくっている要素（以下：要素）とを関連付けながらふしをつくり、つくりかえていく。このように、音楽科と国語科で育成する資質・能力を、子どもが教科等横断的に発揮して課題解決することができるようにしたところが本題材の価値である。

※手事（てごと）…日本伝統音楽の用語。歌の間に挿入された器楽の間奏部分。楽器の技巧を聴かせる箇所。歌の部分と同等あるいはそれ以上に重要視されている。

### 3 目指す姿

**要素の働きを生かした表現を考え、短歌のイメージに合った旋律をつくる子ども**

具体的には、「言葉による見方・考え方」を働かせて短歌の情景を感じ、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、要素の働きを生かした音楽表現を考え、短歌のイメージに合ったふしをつくる姿。

### 4 働かせる「見方・考え方」

○「音楽的な見方・考え方」

音や音楽（音楽のモデル等）を、要素（旋律、フレーズ、反復、変化）とその働きの視点でとらえ、とらえたことと自己のイメージとを関連付けること

○「言葉による見方・考え方」

短歌の言葉の意味、働きに着目すること

### 5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

### 6 指導の構想

これまでに子どもは、国語科で「『百人一首』を声に出して読んでみよう」の学習に取り組んでいる。音楽科の既習の題材「俳句に音楽を♪ - 日本の音階を使って旋律づくり パートⅡ -」を想起した子どもは、「百人一首」も音楽で表現したいと考え、グループで短歌（百人一首の中のお気に入りの一首）を選び、箏を使ってイメージに合うふしをつくり始めた。口唱歌\*を唱えな

※口唱歌…日本伝統音楽の用語。楽器の旋律またはリズムを口で唱えること。コロリン、シャシャテン等。

がらふしを工夫する姿，グループで役割（箏を弾く，歌う）を決めて演奏する姿等が見られた。前題材の作品と似ているふしではあったが，できてきた作品に，子どもは満足している。このような子どもに，次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

**音楽のモデルA（間奏のふしなし）と音楽のモデルB（間奏のふしあり）を提示し，感じたことを問う。**

音楽のモデルを比較聴取させ，要素（旋律，フレーズ，反復，変化）とその働きの違いによって，感じるイメージ（場面や情景等）が違うことに気付かせるための働き掛けである。

できてきた作品に満足している子どもに，音楽のモデルを2曲提示（演奏）する。この2曲は，歌と歌の間に間奏のふしがない曲（モデルA）と間奏のふしがある曲（モデルB）である。モデルAは，モデルBの間奏のふしをカットして演奏する。着目させたいのは間奏のふしの有無であり，2曲を比較聴取させることで「**音楽的な見方・考え方**」を引き出すのである。子どもは，「モデルAは『俳句に音楽を♪』のときと同じような曲だけど，モデルBは間奏のふしがあって日本らしい音楽だ」などと「**音楽的な見方・考え方**」を働かせ始める。そして，「間奏のふしがあると，短歌のイメージや雰囲気をもっと伝えられそうだから，間奏のふしをつくりたい」（**音楽科③態度**）と問いをもつ。

#### 働き掛け2

**どんな表現の工夫ができそうかと問い，工夫のアイデアを整理してから音楽づくりの時間を設定する。**

表現の工夫の見通しをもたせ，音楽づくりをさせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに，どんな表現の工夫ができそうかを問う。とらえた要素の視点で表現の工夫を考えさせ，「**音楽的な見方・考え方**」を明確に働かせるためである。子どもは，「歌と同じふし（旋律，フレーズ）を箏で反復したい」「ふしを大きくしたり小さくしたりして表現（変化を表現）したい」などと「**音楽的な見方・考え方**」を明確に働かせる。工夫のアイデアを共有できるように板書で整理した後，音楽づくりの時間を設定する。子どもは，演奏したり歌ったりしながら表現を試していく。このとき子どもは，即興的に表現して音楽をつくる力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮する。

音楽づくりの場面では，学習シートに，「なぜその間奏のふしを考えたのか」について，理由や説明を書かせる。子どもは，「言葉による見方・考え方」を働かせ，短歌に描かれた情景や短歌に込められた作者の思いを具体的に想像する力（**国語科②思考力・判断力・表現力**）を発揮し，間奏のふしについて言葉で説明していく。

また，音楽づくりの過程で友達とアドバイスを合ったり（**協働性**），タブレット端末で録画して作品を確認したり（**ツール活用能力**）する。

#### 働き掛け3

**自分の作品を振り返らせ，中間発表会を通して気付いたことを問う。**

自分の作品と友達の作品とを比較聴取させ，作品をよりよく表現するための新たな工夫の視点をもたせるための働き掛けである。

間奏のふしを入れた作品がある程度できてきた子どもに，中間発表会を提案する。発表する際には，学習シートに記録した「なぜその間奏のふしを考えたのか」について，理由や説明を述べてから作品を発表させる。自分の作品を自覚させるためである。

子どもは，自分の作品と友達の作品とを比較聴取し，工夫のよさや新たな工夫の視点に気付く。中間発表会を通して気付いたことを問う。子どもは，「間奏のふしが反復されて，会話しているようでした」などと，友達の表現の工夫のよさや新たな工夫の視点を出し合う。そして，それらを生かしてさらに音楽づくりをしたいと考える（**音楽科③態度**）。

再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは，新たな工夫の視点も生かしながら，どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて考える力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して，音楽づくりをする。また，新たな表現の理由等を学習シートに書く（**国語科②思考力・判断力・表現力**）。このとき，友達とアドバイスを合ったり（**協働性**），タブレット端末で録画して作品を確認したり（**ツール活用能力**）する。

#### 働き掛け4

**完成発表会を設定し，音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。**

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

子どもは，歌い，演奏しながら完成した「百人一首の歌」を発表する（**音楽科①知識・技能，国語科①知識・技能**）。このように，一連の学習を通して，**要素の働きを生かした表現を考え，短歌のイメージに合った旋律をつくる子どもになる**。また，振り返りシートに音楽作品の特徴を記述し，音楽づくりで発揮した資質・能力と，その結果どのような作品をつくることのできたのかを自覚する。

8 本時の構想<第1日目> 4/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 4/7時間目)

「音楽的な見方・考え方」を働かせて音楽表現を考えることができる。また、奏でるふしの響きや短歌の言葉から「言葉による見方・考え方」を働かせてイメージを広げ、短歌の情景や作者の思いを具体的に想像することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p><b>1 音楽のモデルを聴き比べ、間奏のふしがある曲とない曲とでは、感じるイメージが違うことに気付く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルAは、『俳句に音楽を♪』のときと同じ感じの曲だね。</li> <li>モデルBは、長い間奏のふしがある。</li> <li>モデルBは、間奏のふしがあって、日本らしい音楽です。霧の囲気が伝わりました。</li> <li>モデルBのような、イメージや霧の囲気が伝わる間奏のふしをつくりたい。☆音楽科③</li> <li>間奏ってどんなふしがいいのかな。</li> </ul> <p><b>2 表現の工夫の見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルBをもう一度聴きたいです。</li> <li>ふしを繰り返している。鹿の鳴く声だ。</li> <li>大きな声や小さな声みたい。</li> <li>雄鹿が雌鹿を探して鳴いているのかな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌のふしを箏で繰り返して(反復して)場面を表現します。</li> <li>口を唱歌で覚えたいふしをイメージ(鳴き声等)に合わせて大きくしたり、小さくしたり(変化を表現)してみます。</li> <li>調子がイメージに合っているかどうか、もう一度考えます。</li> <li>二面の箏で音を重ねて情景を表現してみたいです。</li> </ul> <p><b>3 音楽づくりをする。</b> (以下：○○さんのグループの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ぼくが短歌を歌うから合わせてみよう。</li> <li>「きみがため春の野に出でて若菜つむわが衣手に雪は降りつつ」の「若菜つむ」で区切れると思うよ。</li> <li>じゃあ、ここに間奏なのかな。</li> <li>「きみに若菜をあげたい」と思っているから、「きみがため(五六七八九)」のふしをもう一度箏で繰り返したら気持ち表現できそうだよ。</li> <li>そうだね。それなら「若菜つむ(七七八七八)」のふしも繰り返して一生懸命な感じを出そうよ。高い音でも繰り返してみよう。</li> <li>この場面で雪が降ってくるんだよね。だから口唱歌の「シャ シャ テン」を高い音で繰り返して弾こうよ。ほら、雪がどんどん降っている感じがするよね。</li> <li>いいね。「若菜つむ」の後の間奏のふしで、歌より先に「雪が降りつつ」を音で表現することだね。☆音楽科②、協働性</li> <li>ここまで演奏を学習シートに書こう。タブレット端末で録画もね。☆ツール活用能力</li> <li>「きみがため(五六七八九)」を繰り返して、あげたい気持ちを表現する。「若菜つむ(七七八七八)」も繰り返して、一生懸命な感じを出す。その後の間奏で「シャ シャ テン」を高い音で繰り返して、歌より先に「雪が降りつつ」の場面を音で表現する。☆国語科②</li> </ul>	<p>◎音楽のモデルA(間奏のふしなし)と音楽のモデルB(間奏のふしあり)を提示し、感じたことを問う。【働き掛け1】</p> <p>※箏曲「奥山に」(「たのしく学ぶための箏曲小曲集No.1」正絃社)を使ってモデルA、Bを演奏する。</p> <p>○発問「モデル2曲を聴いてみて、感じたことは何ですか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>間奏はどんなふしがよいのか (学習課題)</p> </div> <p>※必要に応じてモデルBを数回聴かせる。</p> <p>箏曲「奥山に」 野村正峰作曲(平調子*) 『奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の 声きくときぞ秋はかなしき』 猿丸太夫 古今集より</p> <p>※調子…日本伝統音楽の用語。調弦法の意味。平調子、乃木調子、雲井調子等複数ある。</p> <p>◎どんな表現の工夫ができそうかと問い、工夫のアイデアを整理してから音楽づくりの時間を設定する。【働き掛け2】</p> <p>○発問「どんな表現の工夫ができそうですか」</p> <p>※工夫のアイデアを板書で整理する。</p> <p>※箏を二面使う場合は、他のグループと協力して二面使えるようにする。</p> <p>○指示「それでは音楽づくりを始めましょう」</p> <p>※3人グループで役割(箏を弾く、歌う)を決めさせる。演奏に合わせて役割が変わってもよいとする。</p> <p>※学習シートを配付する。</p> <p>※箏と爪を配付する。</p> <p>○指示「なぜその間奏のふしを考えたのか、理由や説明を学習シートに書きましょう」</p> <p>※グループを回りながら、音楽表現やその理由の書き方を、例として全体に紹介する。</p> <p>○指示「できたところまで、学習シートやタブレット端末に記録しましょう」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>間奏は、イメージに合わせて表現するふしがよい (まとめ)</p> </div> <p>※様子を見て、できた作品(1~2グループ)を発表させる。</p>

(3) 評価

「音楽的な見方・考え方」を働かせて音楽表現を考え、演奏したり学習シートやタブレット端末に記録したりしている。「言葉による見方・考え方」を働かせて短歌の情景等を具体的に想像し、発言したり学習シートに記録したりしている(発言、演奏、学習シート、録画記録)。

8 本時の構想<第2日目> 5/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 5/7時間目)

「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現の工夫に気付き、音楽づくり生かすことができる。また、奏でるふしの響きや短歌の言葉から「言葉による見方・考え方」を働かせてイメージを広げ、短歌の情景や作者の思いを具体的に想像することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 自分の作品を振り返り、自分の作品と友達の作品とを比較聴取する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けっこうできたから、みんなに聴いてもらいたいな。</li> <li>・まだ、どう工夫しようか迷っています。</li> <li>・もっといろいろな表現の工夫をしたい。</li> <li>・他にどんな表現の工夫をすればいいかな。</li> </ul> <p>・中間発表会だね。みんなはどんな作品かな。</p> <p>・次は私たちの発表だ。上手く演奏したいな。</p> <p>・「きみがため」のふしを繰り返して、あげたい気持ちを表現しました。「若葉つむ」のふしも繰り返して一生懸命な感じを出します。その後の間奏のふしで「シャ シャ テン」を高い音で繰り返して、歌より先に「雪が降りつつ」の場面を音で表現しました。聴いてください(演奏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(〇〇さんのグループの) シャ シャ テンを繰り返して雪の感じがしました。</li> <li>・(〇〇さんのグループの) シャ シャ テンで、歌より先に雪が降る様子を表現する工夫がよかったのでやってみたいです。</li> <li>・(〇〇さんのグループの) 歌のふしを反復していて、「あげたい」気持ちがこもっていると思いました。</li> <li>・(□□さんのグループは) 間奏で二面の箏を重ねて演奏していて、雰囲気が変わってよかったです。私もやってみたいです。</li> <li>・音の高さが違う表現が、話しをしているようで、参考になりました。 ☆音楽科③</li> </ul> <p>2 新たな工夫の視点を生かして音楽づくりをする。</p> <p>(以下：〇〇さんのグループの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャ シャ テン」を二面の箏で演奏したらどうかな。どんどん音が増えるように。</li> <li>・いいね。ふしの追いかけっこだね。</li> <li>・そうだ。音もだんだん小さくしていったら、「雪が冷たい」って感じる様子が表せるよ。きっと外はまだ寒いんだと思う。</li> <li>・じゃあ「シャ シャ テン(八九 八九 十)」を大きく、小さく、と2回追いかけっこしてから、だんだん小さくなるようにふしを重ねていこう。 ☆音楽科②, 協働性</li> <li>・雰囲気が出てきたね。学習シートに記録しようタブレット端末で録画もしよう。 ☆ツール活用能力</li> <li>・「シャ シャ テン(八九 八九 十)」を二面の箏で演奏する。大きく、小さく、と2回追いかけっこしてから、だんだん小さくなるようにふしを重ねて演奏する。音をだんだん小さくして「雪が冷たい」って感じる様子を表す。 ☆国語科②</li> </ul>	<p>◎自分の作品を振り返らせ、中間発表会を通して気付いたことを問う。【働き掛け3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明「音楽づくりが進んでいますね」</li> <li>○発問「工夫できたグループもいますが、工夫に迷っている、もっと表現を工夫したいという声も多いです。どうですか、もっと工夫したいですか」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もっと表現の工夫するにはどうすればよいか (学習課題)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明「それでは、中間発表会を行って、どんな工夫をしているのか聴き合いますよ」</li> <li>※表現の工夫が参考になりそうな2～3グループを取り上げる。</li> <li>○指示「できたところまで作品の特徴を紹介してから、作品を発表してください」</li> <li>※学習シートを配付する。</li> <li>※発表用の箏を用意する。</li> </ul> <p>○発問「友達の演奏を聴いてみて、気付いたことはありませんか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※出された工夫点や改善点を全体で共有できるように整理し、板書する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口唱歌のふしを反復する</li> <li>・間奏のふしで歌より先に場面を表現する</li> <li>・歌のふしを反復して気持ちを音でも伝える</li> <li>・二面の箏で音を重ねて場面を演奏する</li> <li>・音の高さを変えて鳴き声や会話を表現する (まとめの例)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指示「新たな表現の工夫に気付いたようですね。気付いたことも生かして、音楽づくりの続きをしましょう」</li> <li>※必要に応じて、二面の箏が使えるように、近くのグループと相談させる。</li> <li>※グループを回りながら、新たな表現の工夫やその理由等を取り上げて価値付けたり、例として全体で紹介したりする。</li> <li>※様子を見て、できた作品(1～2グループ)を発表させる。</li> </ul>

(3) 評価

「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現の工夫に気付き、気付いたことを生かして音楽表現を考え、演奏したり学習シートやタブレット端末に記録したりしている。「言葉による見方・考え方」を働かせて短歌の情景等を具体的に想像し、発言したり学習シートに記録したりしている(発言、演奏、学習シート、録画記録)。